

## 「異文化から学びあう社会」

中国と日本が、力を合わせ、ミッションにあたる姿が報道番組の画面に連日のように映し出されてきました。「四川大地震」の日本からの救援隊の姿です。崩れた校舎にいた子どもたちを助けだし、中国の救援隊と手を取り合って喜ぶ両国の救援隊の姿を見て、私の胸がジーンと熱くなるのを感じました。私が、深くかわかる二つの国が、力を合わせる姿に私はいつも感動するのです。

私は、五年前、両親の仕事の関係で日本に来ました。最初、表面的に見ると日本人と中国人は大きな違いはありません。でも実際にこの日本に住むと、毎日の生活を通してその違いを肌で感じる事ができました。近年、中国の経済発展に伴い、日本と中国の民間レベルでの関係が非常に密になっています。両国の文化の中で生活する私は、日中の違いを通してお互いが高めあえば素晴らしいと強く考えました。

私を含めた中国人と日本人の違いを、生活体験をもとに考えて見ると、住環境に対する美化意識の違いではないでしょうか。私が住んでいる家のまわりには、ゴミがほとんどなく、花や木がきれいに植えられ、とても美しい環境です。中国では、相対的な住環境の美しさは、日本に劣ります。昨年、中国に帰った時、街のまわりに多く放置されたゴミを見て、すごくショックでした。友達のマンションのまわりには花や木ではなく、あるのは分別してないゴミでした。中国は今、経済重視で資本を生み出さない「環境」はプライオリティーが低いと言わなければなりません。

他国から、そして、異文化から学ぶことは本当に大切なことです。「環境」に関する意識をしつかりと持つことが、私が、日本から学んだことといえます。私が、現在、様々な清掃ボランティアに積極的に参加しているのも、そのような背景があります。

逆に、日本の友人達に伝えたいこともあります。私は、日本の友人達と交流していると、大きく疑問に感じるがあります。それは、なぜ、日本人は、周囲の人と積極的にコミュニケーションをとらないのだろうかということなんです。中国人は、初対面の人でも、友達のように話しかけてきます。「どこに住んでいるの？家族は？仕事は、給料は？」日本人から見ると、信じられない光景でしょう。日本語で言う「ずうずうしい」姿です。しかし、中国では普通に、話しかけ、普通に返答します。友達を多く紹介もしてくれます。知らない相手でも、友達の友達なら、同じく友達というくらいに良くしてくれるのです。先日、私が中国に帰った時のでき事でした……バスである知らないおばさんに話かけられました。「你好呀 你叫什么名字呢？」（こんにちは、お名前は？）、「哦 原来这样啊 那个、你站着累不累？我不坐我这里」（えーそうなんだ、君ずっと立ってるから、疲れたでしょう？こつち座る？）中国では、会話によって積極的に人間関係を広げていこうという心が強くはたります。従のつながりより、横のつながりを大切にしているのです。相手を喜ばすために、最大のことをしてあげようという心にあふれています。そこに生活している人全てが親しい友達なのです。

今、日本は、コミュニケーション不足で様々な問題が生じていると聞きました。「いじめ」「対人ストレス」「集団不適応」「クレーマー」「孤独死」……。しかし、これらは、すべてコミュニケーションを高め、自己の考えや、悩みを素直に人に表現し、相手に伝えれば、多くが解決すると思います。みんなが、支え合う雰囲気づくりが大切です。

また、中国では、学校内に、あいさつがあふれています。私の高校は、「あいさつがあふれ素晴らしい」とほめられますが、中国ではあたりまえのことです。また、目上の人や、特に、先生には、しっかりとした礼儀をもたなくてはなりません。あいさつしながら頭を下げ、先生を名前を呼び捨てにすることなどは有り得ません。教師」と、日本語と違

い、敬語のない中国でも、先生に対する礼儀は、驚くほどしっかりしているのです。コミニケーション力を、子どもの時期に、家庭や地域社会、そして、学校で身につけます。

同時に、中国人は、若い頃に多く学ぼうとします。だから、高校生、大学生の勉強に対する真面目さと、真剣な思いも、日本の学生に伝えたいことです。私は、西安交通大学に在る友人から大学の生活状況をいろいろと聞きました。中国の大学は、入学すると必ず学校の寮に住む原則があります。そこで集団生活の厳しさをしつけられます。学校は七時から始まるけど、大学生たちは「学分」つまり、単位を取るために朝六時にはもう教室に着いて自習します。テストの前には、学校の図書館の席を、一ヶ月前に予約します。この四年の大学生活を社会に出る前の訓練場だと捉え、たくさん勉強しなければならぬと、全員が思っています。

中国人と日本人…、私と友人達…、お互いが、理解し合い、成長し合うことができたなら、こんな素晴らしいことはありません。事実、この文章を書いている今、友人達は、私の中国の話に感心し、共感し、作文へのアドバイスをくれました。社会の先生は、現在の日中関係を、国語の先生は、中国の大学で教師として働いていたときの体験を話してくれました。そして、そのコミュニケーションの深さがあるからこそ、お互いが、支え合って、学び合っていることを、私は、強く感じ、心を打たれました。私は、将来、中国語と日本語、そして、英語力を活かした仕事に就きたいと考えています。「異文化から学びあう社会」を目指したいのです。両国の文化の中で生活する私は、日中の違いを通して学びあい、お互いが高めあえれば素晴らしいと今、強く考えています。

